

企業振興育成WG 令和3年度 活動報告

2022年3月2日
鯨岡

本年度も昨年に引き続きオンラインでの会議を実施
活動実績ならびに今後の予定は以下のとおり

●オンライン・ミーティングの開催

①2021年5月27日（木）

- ・秋田県 産業労働部（安杖様）ならびに企業立地事務所（羽川様）より
「本年度の活動計画、目標、現状報告など」

②8月31日（火）

③9月30日（木）

④11月30日（火）

- ・以上の会では、今期の活動について、あきた寺子屋の内容などについて討議
10月にWGメンバーに今後の取り組みに関するアンケート調査を実施

⑤12月13日（月）

- ・わらび座の再生計画や支援策について

●秋田IT Café in Tokyoのオンライン開催（原則偶数月の第二火曜日夜の開催）

- ・4月13日 田村新吾様（元ソニー）
- ・6月8日 渡辺亮太様（経済産業省）
- ・8月10日 斎藤昌義様（ネットコマース（株））
- ・10月12日 百野公裕様・児玉都様（（一社）グラミン日本）
- ・12月14日 赤木弘喜様（大夢CSO代表）
- ・2月8日 七尾健太郎様（日本オラクル（株））

●第10回あきた寺子屋（秋田コネクト）のオンライン開催

2022年1月30日（日）・2月13日（日）の2回開催
テーマは「ここから自分のやりたいことを考え、つながり、一步を踏み出す」

●今期のこれからの活動計画

・WGの取り組むテーマについて

- ・ 秋田県の産業人材の発掘、支援、（起業・就労・関係人口・二拠点…）
- ・ SDG s をフックとした県内産業・企業の活性化やブランディング

・秋田産業サポータークラブの広報体制の整備

活動の情報発信、情報共有などをより推進するために

地域連携観光WG 2021年度ワーキング報告

20220125

出席者

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 藤盛 | 7. 日景（大館市） |
| 2. 竹内 | 8. 齊藤（大館市） |
| 3. 奥村（3D測量） | 9. 荒谷（大館市） |
| 4. 有馬 | 10. 菅原（大館市） |
| 5. 高橋（秋田いざたん主催） | 11. 佐藤（健） |
| 6. 五十嵐（弁護士） | 12. 佐藤（信） |

敬称略

地域連携観光WG 2019年次報告（の復習）

202003総会報告

ターゲットを見据えて 長く光を放ちうる素材の選定

I. 日本人（団体）

金遣い：安い

宿 泊：なし

観光形態：バスで立ち寄り

季 節：春から秋

イベント時のポイントでしか訪れず、金遣いはほとんど無い＝市に落ちるお金は低い

II. 外国人（団体）

金遣い：アジア系は少ない

宿 泊：圏域で1泊

観光形態：バスで立ち寄り

季 節：春から秋、冬も

イベント時のポイントでしか訪れず、金遣いは日本人よりある＝市に落ちるお金は低い

マニアに受けることが交流人口の創出

III. 日本人（マニア）

金遣い：一部のマニアは、高くてもそこにしかないものを求める、exp鉄道マニア

宿 泊：目的を達成するために長くも短くもある

観光形態：公共交通機関

季 節：来たいとき、最も旬なとき

個人の満足を満たすために使う金は大きい＝市に落ちるお金は多い＝対象物が深いと何回も来る傾向にある

IV. 外国人（マニア）

金遣い：EUからの客は教養もあり高くてもいいものを求める

宿 泊：はるばる来るので長い

観光形態：公共交通機関

季 節：求める季節による

個人の満足（教養を満たすものを提供できれば）のために使う金は大きいがシビアな選択＝市に落ちるお金は多い＝他国との比較になる

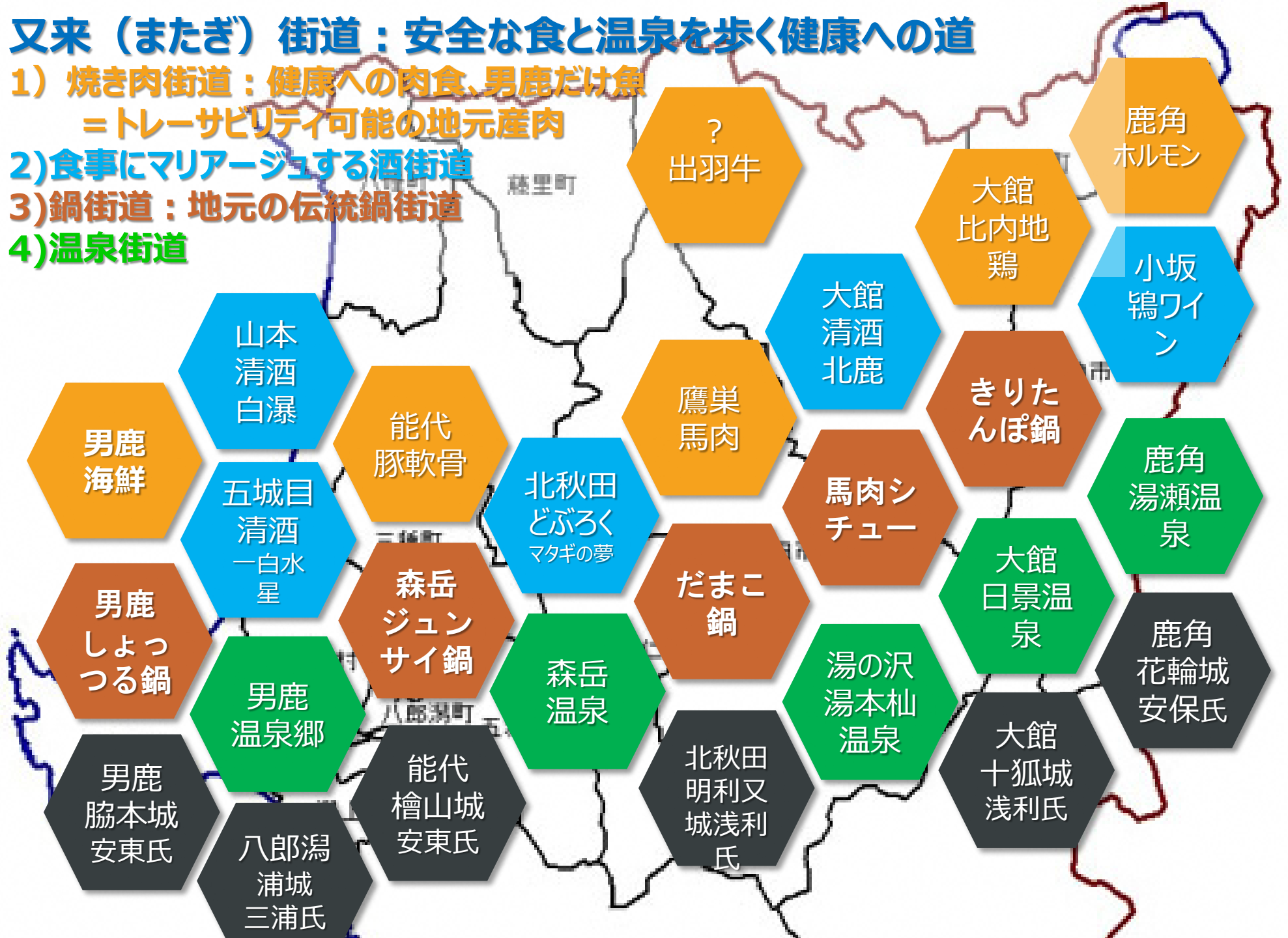
又来（またぎ）街道：安全な食と温泉を歩く健康への道

1) 焼き肉街道：健康への肉食、男鹿だけ魚
＝トレーサビリティ可能な地元産肉

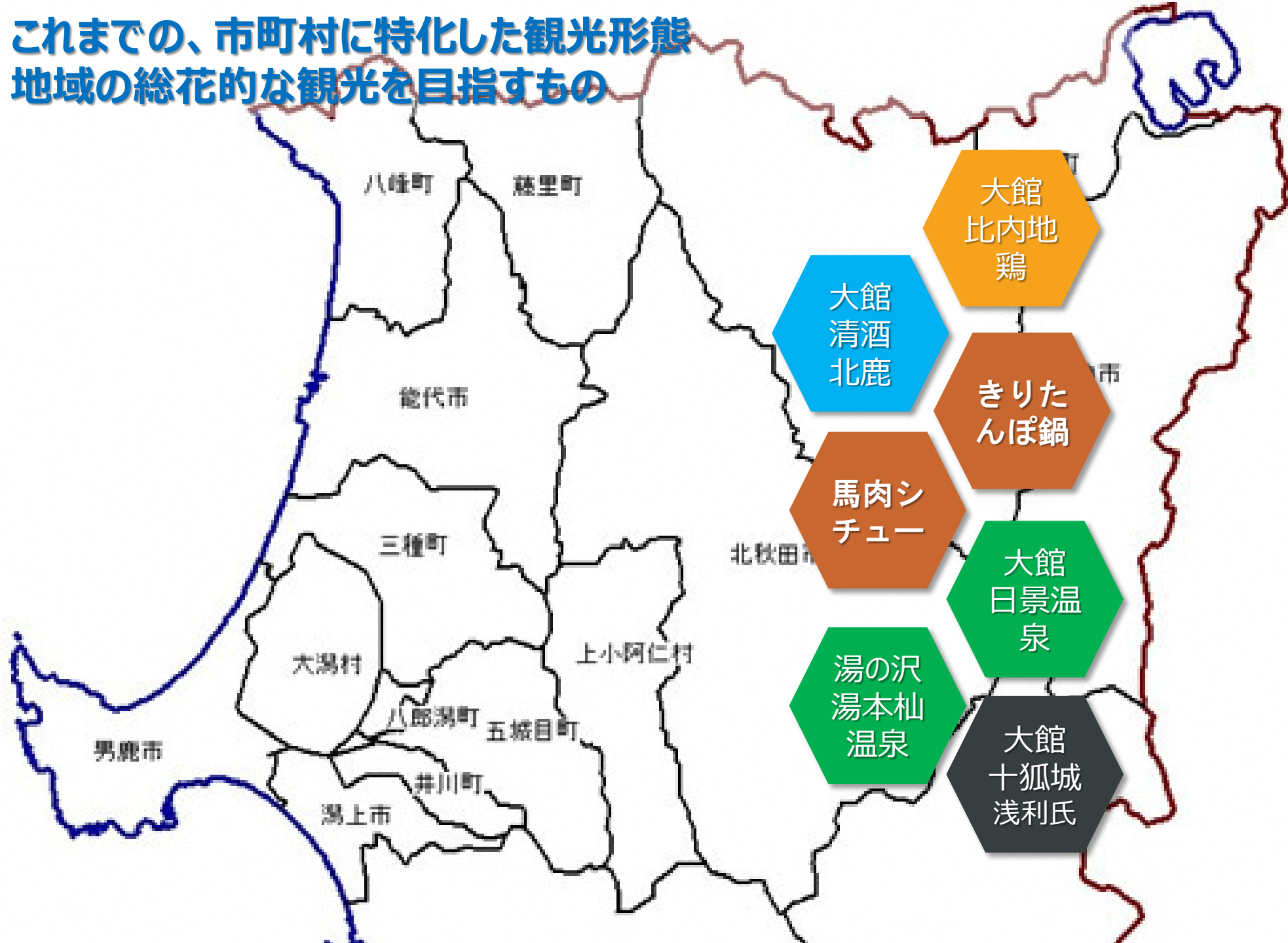
2) 食事にマリアージュする酒街道

3) 鍋街道：地元の伝統鍋街道

4) 温泉街道



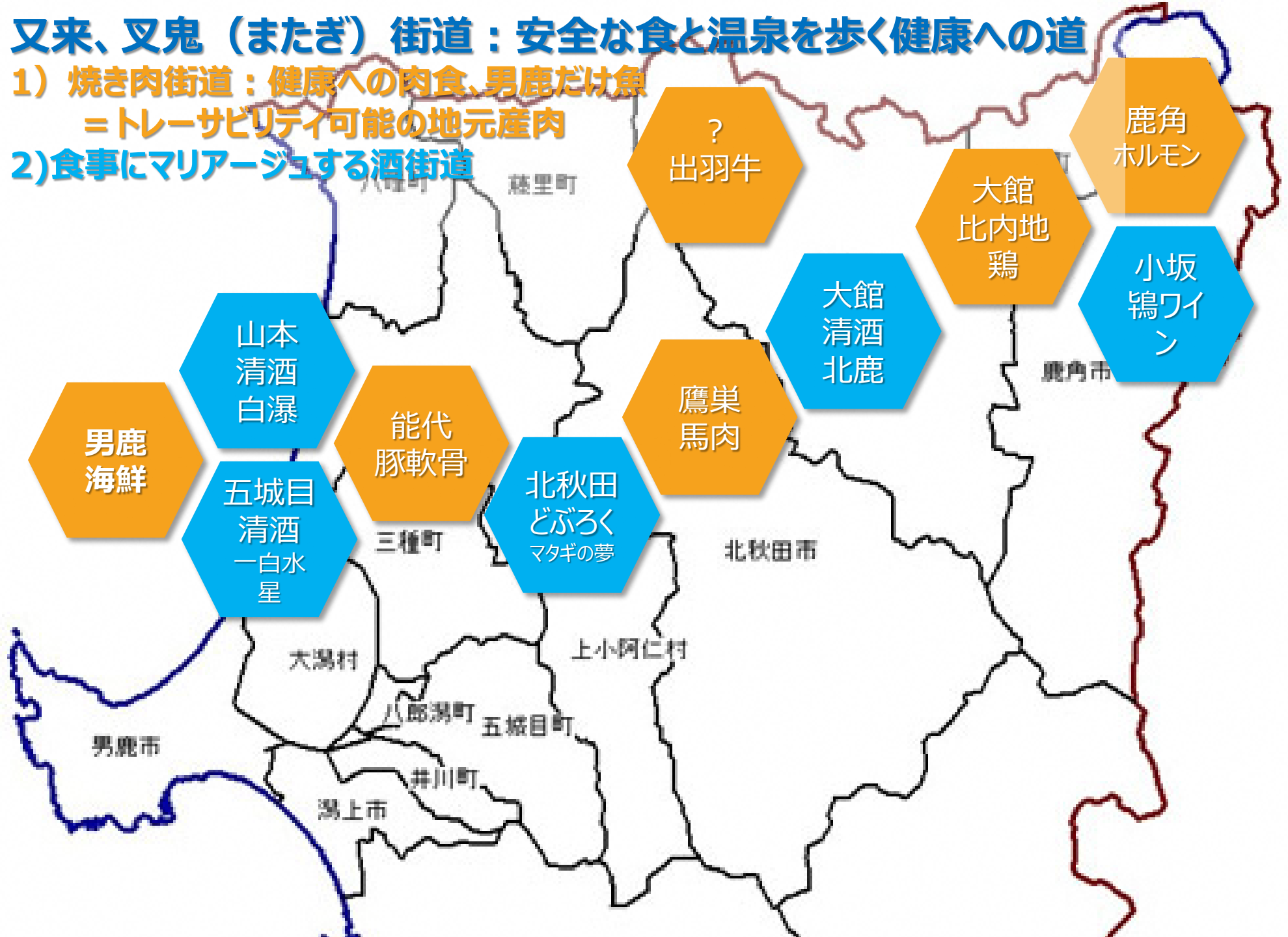
これまでの、市町村に特化した観光形態
地域の総花的な観光を目指すもの



又来、又鬼（またぎ）街道：安全な食と温泉を歩く健康への道

1) 焼き肉街道：健康への肉食、男鹿だけ魚
＝トレーサビリティ可能な地元産肉

2) 食事にマリアージュする酒街道



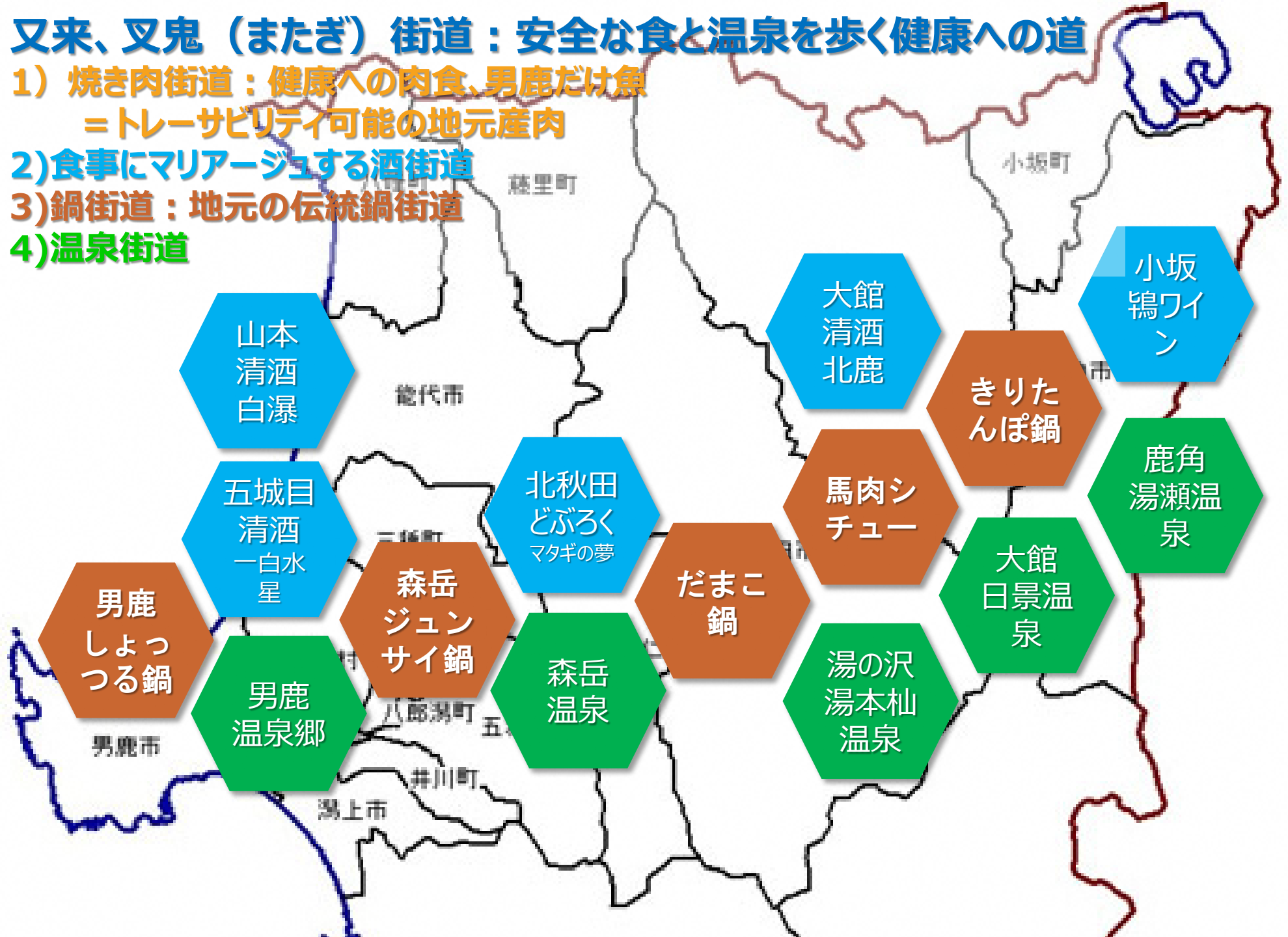
又来、又鬼（またぎ）街道：安全な食と温泉を歩く健康への道

1) 焼き肉街道：健康への肉食、男鹿だけ魚
＝トレーサビリティ可能な地元産肉

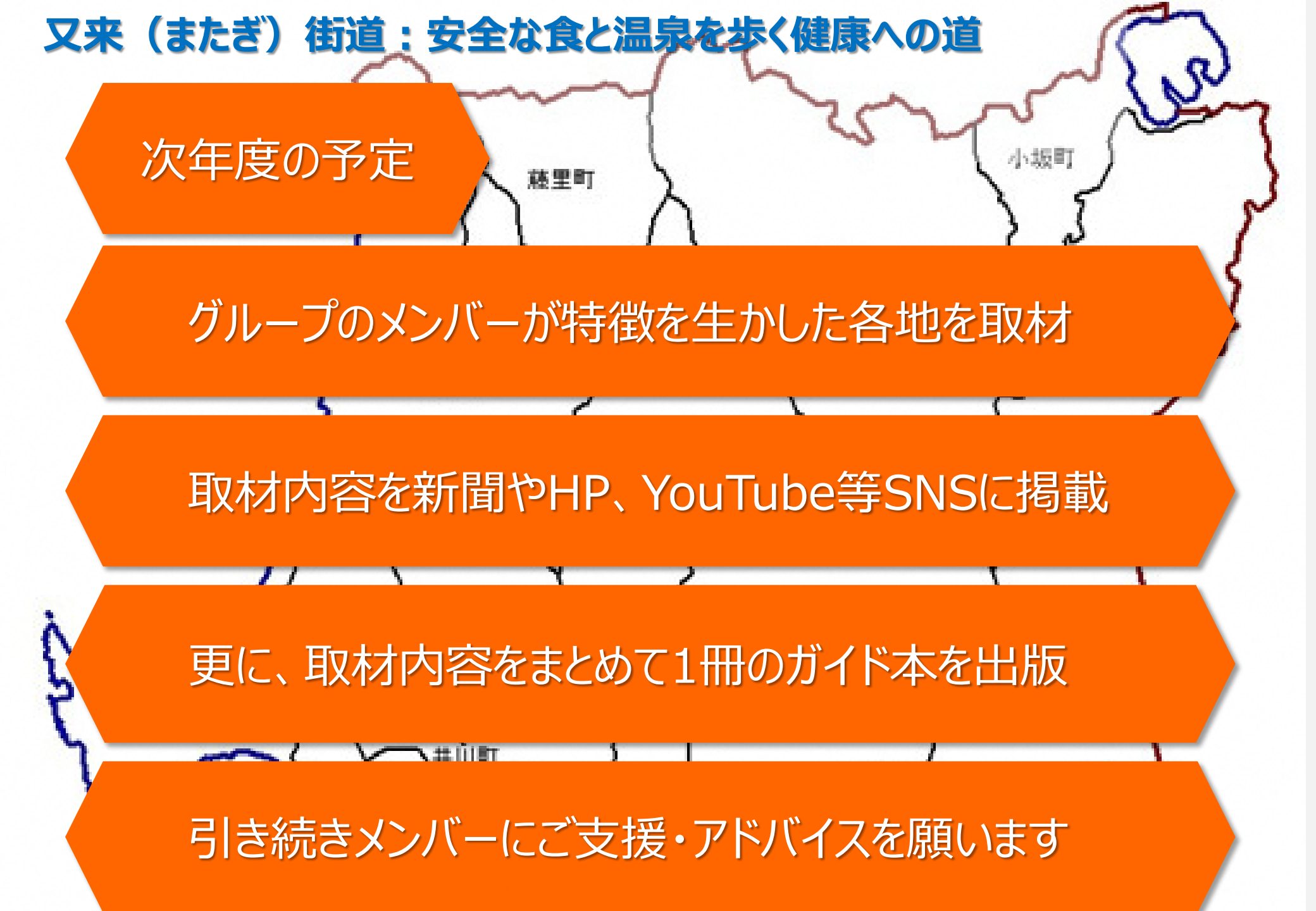
2) 食事にマリアージュする酒街道

3) 鍋街道：地元の伝統鍋街道

4) 温泉街道



又来（またぎ）街道：安全な食と温泉を歩く健康への道



次年度の予定

グループのメンバーが特徴を生かした各地を取材

取材内容を新聞やHP、YouTube等SNSに掲載

更に、取材内容をまとめて1冊のガイド本を出版

引き続きメンバーにご支援・アドバイスを願います

2020||8の議事

1. 2022年度の進め方、提案
2. これまでの、議論の復習
3. 2022年度のワーキング予定
(1月、3月15日、5月、7月、9月、11月)

新しい試みとして |

- 地域の食材について詳しくなる
 - =この詳しくなった食材を活用した駅弁の制作
 - =駅弁と言っても、鉄道の駅ではなく、道の駅の駅弁に活路を見いだしてはいかがか
- 地域の歴史、地理に詳しくなる
 - =この地域のガイドマップはあるが、どれも総花的になっており面白みに欠ける
 - =双六のようなマップにして、地域の面白さとゲームのような旅の楽しみ方をミックスできないか

花善の鶏飯はパリで販売！！

- 「鶏めし弁当」は、JR大館駅前にある駅弁屋の「花善」。明治32年（1899）、大館駅の開業と同時に創業した花善では、戦前、大館名物「きりたんぽ」をお弁当にして販売していました。その売れ残りの鶏肉を甘辛く煮付けて、社内のまかないとして食べていたのが、現在の鶏肉の味付けの原点となりました。
- ＝地域の食の資産は「きりたんぽ」だけではない。**新しく開拓した食材**で新しい弁当を開発してはいかがでしょうか？
- ＝食べる場所は、道の駅、大館能代空港



独自のとがった双六で魅力度アップへ！！

- 普通のガイドマップは、総花的になっており面白みに欠ける
- ぜひ、ワーキングでマニアックな双六を作成したい
- =マピオンや奥村さんの力が必要！！

[illegible]

新しい試みとして 2

- ワーキングの活動内容を定期発信する
- =これまで、地元への情報発信と連携がなかったことの解消へ向けて
- 北鹿新聞への掲載（投稿）について
- 日曜日ごとに「秋田産業サポータクラブ 地域連携歴史観光WG」の皆様より「ふるさと秋田・わがまち大館」へ提言
- 原則お一人1回（提言内容が多様かつ濃厚な場合お一人2回）
- 一掲載あたりのボリューム
- （1）文章：800文字～1000文字（13文字×76行）
- （2）写真や資料：2枚
- 具体的な手順とスケジュール
- 概ね5名（5回）の原稿が整った段階で、一度北鹿新聞社の佐藤さんへ原稿をお渡しし、社内調整を経て第1回目スタート。
- その後、順次5名（5回）刻みで提言をとりまとめ、日曜日（土曜日）ごとに掲載

北東北歴史懇話会活動報告

主査 横山裕司

米代川・八郎潟・秋田河(雄物川)周辺、秋田県全域(出羽北部)の
「エミシ」の9～11世紀の動向を、律令の柵の歴史と共に語る
全国の市民歴史愛好家を対象とするオンライン・シンポジウムの開催

- 2021年 5月13日 第1回北東北歴史懇話会内で打合せ(Zoom使用 以降も同様)
オンラインシンポジウムによる開催と決定
後日、シンポジウムの録画をユーチューブにもサイトアップすることも決定
- 7月12日 第2回北東北歴史懇話会内で打合せ
- 8月13日 第1回講演関係者打合せ
シンポジウムの講演内容、議事次第等を決定
- 9月22日 第2回 同 上
横手市・北秋田市・大館市の3会場での同時上映が決定
- 10月10日 シンポジウム 周知用のチラシ配布開始
- 11月20日 第3回 同 上 最終打合せ、リハーサル
- 11月27日 **シンポジウム開催**

秋田の「エミシ」関連シンポジウムの実績

(北東北歴史懇話会 主催)

平成25年(2013年)

シンポジウム「出羽の清原氏から平泉の藤原氏へ」 横手市と共催 東工大蔵前会館

平成27年(2015年)

「元慶の乱研究会—米代川流域の古代史をさぐる」 【公開研究会IN大館Ⅰ】

平成27年(2015年) 十和田噴火1100年記念シンポジウム

「火山噴火が変えた日本の歴史」 北秋田市と共催 東工大蔵前会館

平成28年(2016年)

「平安時代の北秋蝦夷社会」 【公開研究会IN大館Ⅱ】

平成31年(2019年)

「河田次郎の時代」 【公開研究会IN大館Ⅴ】

シンポジウム

出羽の「エミシ」の興亡

日時：2021年11月27日（土）

13時00分～16時30分

開催方法：オンライン「ZOOM」開催

同時上映：大館市北地区コミュニティセンター

北秋田市民ふれあいプラザ コムコム

横手市交流センターY2（わいわい）プラザ

議事次第

総合司会 北東北歴史懇話会 主査横山裕司
開会の辞 秋田県教育委員会 文化財保護室 武藤祐浩室長
基調講演

出羽の「エミシ」の興亡 秋田考古学協会 高橋学会長
シンポジウム

司会モデレーター 北東北歴史懇話会 藤盛紀明会長
秋田考古学協会 高橋学会長
報告 雄物川周辺の「エミシ」と清原氏 横手市教育委員会 島田祐悦氏
米代川周辺の埋没建物から「エミシ」の動向を探る 北秋田市教育委員会 榎本剛治氏
米代川周辺の古代防御性集落 大館市教育委員会 嶋影壮憲氏
比内の「エミシ」を語る 北羽歴史研究会 虻川嘉久会長
講評 えみし学会 八木光則会長

参加者の状況

オンライン参加者 約80名

横手市・北秋田・大館市会場 約60名 合計 約140名

ユーチューブ配信

シンポジウム 出羽の「エミシ」の興亡 - YouTube(全体 3時間半)

https://www.youtube.com/playlist?list=PLOgZSGv7DHqQrx2_33Kzc5KA-gRIArULd

第1部 基調講演 出羽の「エミシ」の興亡 秋田考古学協会 高橋学会長

<https://www.youtube.com/watch?v=Dbw9h4KYk0M>

第2部 地元専門家のスピーチ

横手市教育委員会

島田祐悦氏

北秋田市教育委員会

榎本剛治氏

大館市教育委員会

嶋影壮憲氏

北羽歴史研究会

虻川嘉久会長

<https://www.youtube.com/watch?v=QkVhNN0psdw>

第3部 パネルディスカッション

(モデレーター: 藤盛さん、パネラー: 高橋会長 + 上記4氏)

<https://www.youtube.com/watch?v=6lwdzIxAN3U>

講演者

右:基調講演 高橋会長
下:司会及びパネリスト
左上:藤盛氏 右上:島田氏
左下:虻川氏、嶋影氏
右下:榎本氏



古代エミシの生活に迫る

オンライン
シンポジウム

県内3カ所に同時中継

シンポジウム「出羽のエミシの興亡」が27日、北東北歴史懇話会（藤盛紀明会長）が主催。東京都を中心に、秋田県の歴史に関するシンポジウムを毎年開いている。

大館市北地区コミュニティセンター、北秋田市民ふれあいプラザコミュニティなど県内3カ所に同時中継された。このうち大館市の会場には歴史愛好家など25人が参加した。秋田考古学協会の高橋学会長が「出羽のエミシ

古代のエミシに理解を深めたシンポジウム（大館市北地区コミュニティセンター）

の興亡」と題して基調講演を行った。エミシは古代の東北地方から北海道に居住していた人々。講演では、古代の秋田県内で生活していたエミシについて文献資料や考古資料を用いて講話した。高橋会長は、7～11世紀の米代川流域の古代集落遺跡に着目。7世紀代に属する竪穴建物が少なく、9世紀に入ってから急増する点から「8世紀段階までのエミシの住居は竪穴ではなく、簡易的なテントのような構造だったため遺構が存在せず、定住しない生活様式をしていた可能性も高い」と述べた。

このほか、パネリスト4人によるスピーチやパネル討論が行われた。

秋田杉活用WG 2021年度ワーキング報告

20220125

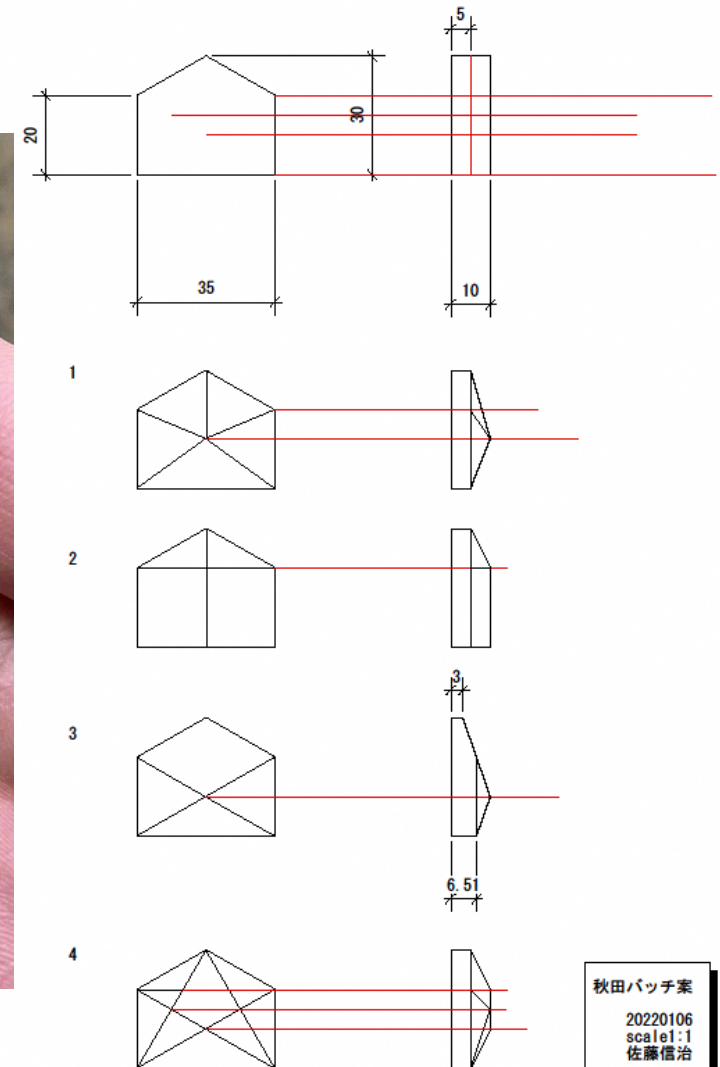
これまでの試みの続きとして

- 秋田の資産である材料、木材資源について情報発信へ
- =秋田杉活用ワーキングとの協業
- =ノベルティを作成、バッチなどコレクターズアイテムにして、マニアの心をくすぐる
- 地域の建築、文化財に詳しくなることで、秋田杉の優秀さを広くアピールできる
- =登録有形文化財所有者の会の全データを収集する
- =登録有形文化財の全て網羅した写真集を出版する
- =3D測量（歴史WGの奥村さんの協力を得て）で全ての建物をデータ化することで、新たな資源とする
- =HPなどを活用して全世界に情報発信を模索中
- =木の建築文化は日本独特で、これほど古いモノが残っている地域は数少ないため、ヨーロッパの人に感激される
- =中国も木材文化が有ったが、古いモノは壊されてしまった。ルーツを探るため日本に訪れる。本当は再生したいが、現在は資源が枯渇しており不可能

秋田杉製のバッチを試作 能代の湊さんと協業



ただの秋田杉ではなく、天然記念物になった秋田杉の古木の活用



なぜノベルティをそろえるのか？
マニアの揃えたいという願望をくすぐる



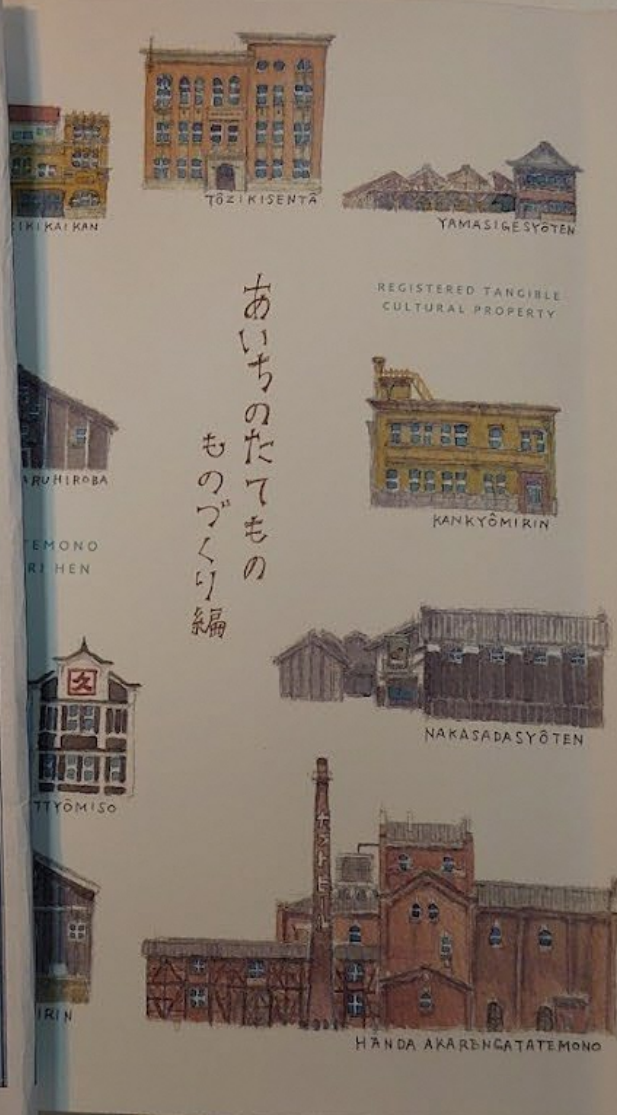
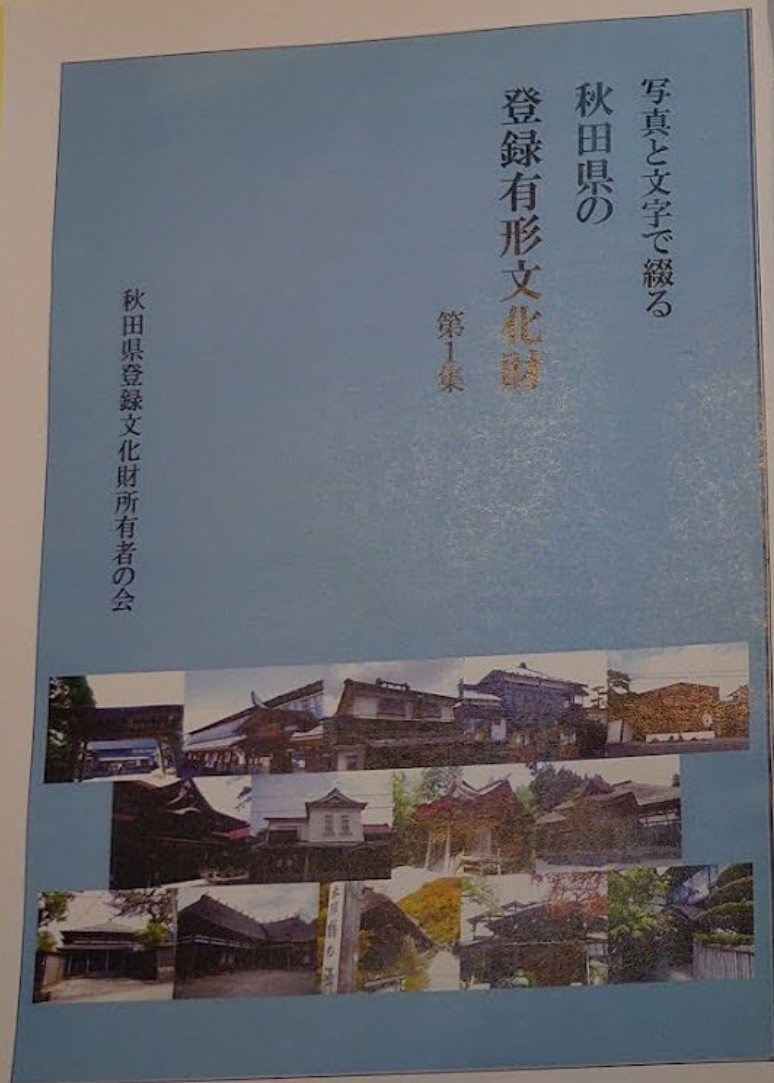
東京十社の参詣記念として、集めることで御利益が得られるかもしれないという心理をくすぐる

なぜノベルティをそろえるのか？
マニアの揃えたいという願望をくすぐる



弘前ねぶたまつりの記念として、集めることで益は何もないが、なんとなく集めないと達成感が得られないという心理をくすぐる

作品集をA4～A5に縮小し、 追加取材を経て増補改訂版を出版予定



令和 3 年度 秋田産業サポータークラブ幹事会における活動報告書

食美健 WG 主査
千葉良子

令和 3 年度の事業計画

秋田八幡平温泉郷一帯の活性化支援事業：R3 年を食美健 WG（第 2 期）とし、第 1 期（H17～19）に作成したポスターや報告書に基づき PR 活動を中心に行う。また、現地メンバーとの意見交流を図り活性化のために今後の方向性を検討する。

会議開催日

- 第 1 回 会議 5 月 17 日（月） ZOOM
- 第 2 回 会議 7 月 16 日（金） ZOOM
- 第 3 回 会議 10 月 15 日（金） ZOOM
- 第 4 回 会議 12 月 13 日（月） ハイブリット：東京事務所 + ZOOM

経過報告

- 第 1 回：幹事交代（佐藤健次氏より阿部光太郎氏に）各部会からの活動総括（観光交通野菜）
- 第 2 回：玉川温泉の畠山米一氏、後生掛温泉の阿部愛恵氏からの現状報告と意見交換
伝統野菜取組の現状プレゼン（吉尾聖子氏）
- 第 3 回：八幡平温泉郷観光支援活動の今後の継続について、食美健 WG 会員への継続確認を図る
- 第 4 回：八幡平スキー場の浅石敦幸氏、藤七温泉、大沼茶屋湖の阿部孝夫氏からの現状報告と意見交換；
浅石氏からは鹿角市作成の「国立公園八幡平魅力アップ構想の概要」の趣旨説明
阿部氏からは前々年度の 8 割強回復してきたこと、日本政府観光局、総務省関係、東北観光推進機構など色々なところから PR のお誘いを受けたことなどが説明された。

まとめ

第 1 期に作成した八幡平温泉郷ポスターが横山裕司氏（交通新聞社社長）のご尽力にて、都内 JR7 駅に掲出されたことは大変喜ばしい出来事であった。横山氏に深謝申し上げます。また、吉尾氏の伝統野菜は秋田県内の若者・シェフらを中心に承継していくことが望ましい。さらに地元から代表者（畠山氏、阿部氏、浅石氏、阿部氏）に参加頂き地元の現状・情報を共有することができた。岩手県側は、安比の開発に八幡平市が力を入れて大手スーパーなどの誘致計画が進み活気づいている。秋田県側もこういうものを進めてほしいとの声。

5 月に事務局に提出した令和 3 年度の事業計画は概ね達成できたと感ずる。今後、WG としては鹿角市との連携を視野にいれた支援を考えていく予定である。



JR 駅構内にポスターが掲出されたことが、秋田さきがけ新報と北鹿新聞に掲載されました。



追加分

令和 3 年度 秋田産業サポータークラブ活動報告

食美健 WG 主査 (0202)

千葉良子

会議開催日

第 5 回 会議 1 月 14 日 (金) ZOOM

経過報告

第 5 回 : 鹿角市 DMO 阿部希美さんによる報告

鹿角 DMO は観光地域法人として、地域全体にお金を落とすことを目標に活動している。
観光庁が窓口で国が登録している DMO で観光地域づくり法人である。
ヘリテージツーリズムコーディネーター、インバウンド誘致活動、プロモーション・IT・SNS 発信、
など色々な取組を数名で行っている。今後は、各方面との連携を進めていきたい。

鹿角市民以外に向けた施策として HP 旅するかづの で紹介

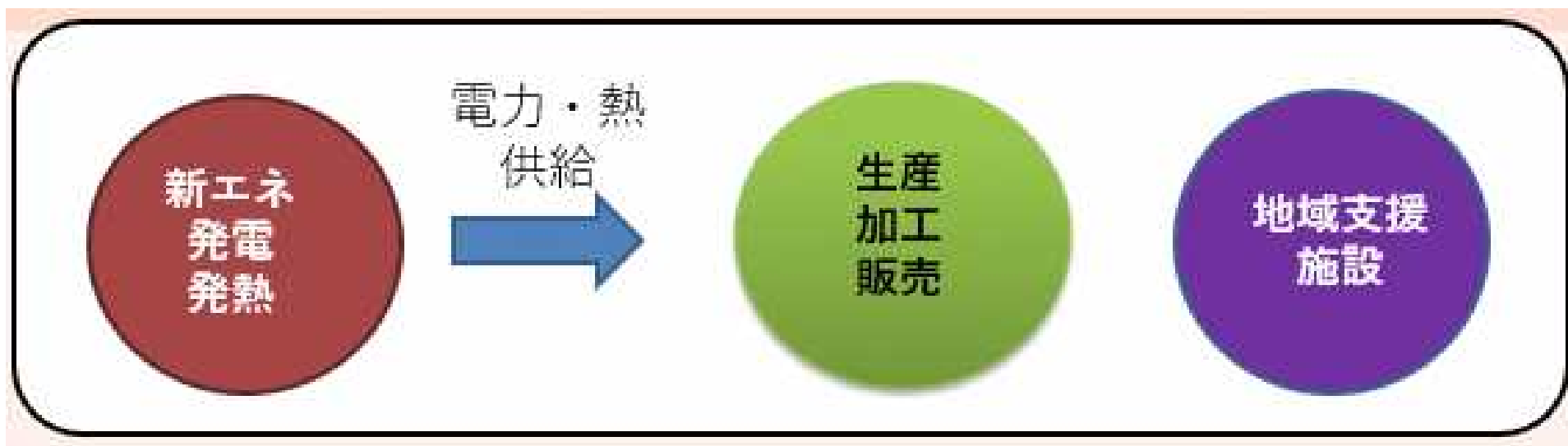
<https://explorekazuno.jp>

秋田産業サポータークラブ・新エネルギー地産地消WG

令和3年度 活動報告

2022年3月2日

WG主査 加賀谷健治



新エネルギーを使用した「電力・熱供給施設」と「地場特産品生産施設」の「コンビナートまたはクラスター」建設を県内各地に提案する。

1, 講演による先端技術や事例調査ー 1

1. 1. 「地産地消木質バイオマス発電」

(続可能な発電所構築に向けて)

- ・ 講師：大仙バイオマスエナジー代表取締役 金井義博氏
- ・ 月日：：2021年4月19日（第13回WG）
- ①適切な林業実践でバイオマス燃料供給。
- ②林地残材とされる枝葉、短コロ（根株）を燃料に木材の有効活用。
- ③地域貢献：余熱利用による地域コミュニティへの寄与。



1. 2. 「仙北市の新エネルギーへの取組み」

- ・ 講師：仙北市総務部企画政策課課長 齋藤洋課長氏
- ・ 月日：2021年6月21日（第14回WG）
- ①仙北市地域新エネルギービジョン：地域資源を活用した小水力、バイオマス発電、温泉熱、水素抽出、木質バイオマス発電、太陽光発電等に挑戦。
- ②玉川温泉水からの水素抽出と燃料電池車への実証化。地中熱による空調設備、駐車場路面融雪設備を整備。
- ③乳頭地区「鶴の湯、小野草水力発電」は地域貢献型水力、2021年8月完成予定。



1, 講演による先端技術や事例調査－2

1. 3. 「乳頭温泉地区における 地域貢献型水力開発 (鶴の湯・小野草水力所)」

・講師：仙北水力発電株式会社 社長 佐藤育男氏

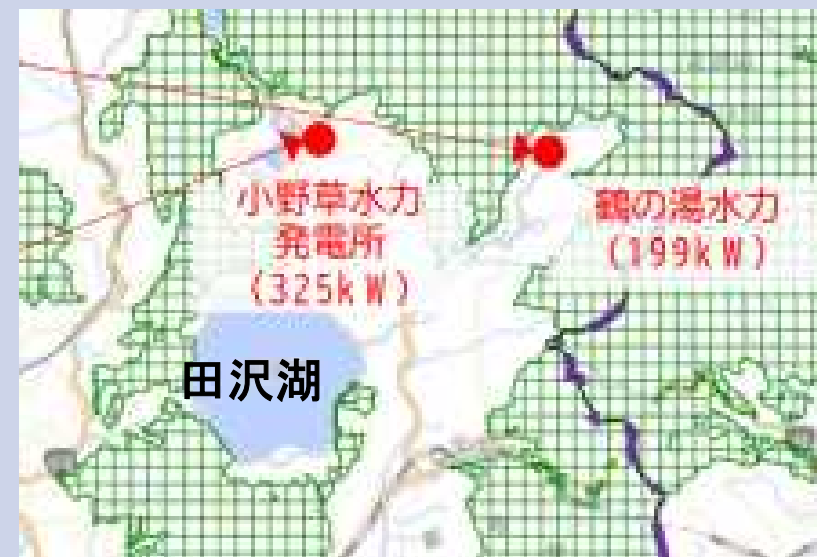
・月日：2021年6月21日（第14回WG）

①水力開発の適正ルールを遵守し、「植民地型開発」
から「地域貢献型開発」

②地元貢献：地場産業を創出、建設工事に地元企業活用、
収益の一部を地域に還元。

③鶴の湯水力発電：水量1.05m³/s、落差23.5m、出力199kW

④小野草水力発電：水量0.6m³/s、落差63m、出力325kW。



1. 4. 「小水力発電開発事例」

・講師：WWS-JAPAN 京都オフィス 東倉翔太氏

・月日：2021年6月21日（第14回WG）

①アルプスの山々の高落差型、ドナウ川の豊富な水量による低落差型まで多様地形に対応しているオーストリア企業との合弁会社。50KW以上の水力発電の製造・設計・施工・保守。

②鶴の湯・小野草水力所に採用

	水力	石油・石炭 ・天然ガス等
オーストリア	60%	21%
日本	8%	75%



左：取水口
右：発電機



1, 講演による先端技術や事例調査ー3

1. 5. 「地域活性化コンサル事例・地域新電力設立の考え方」

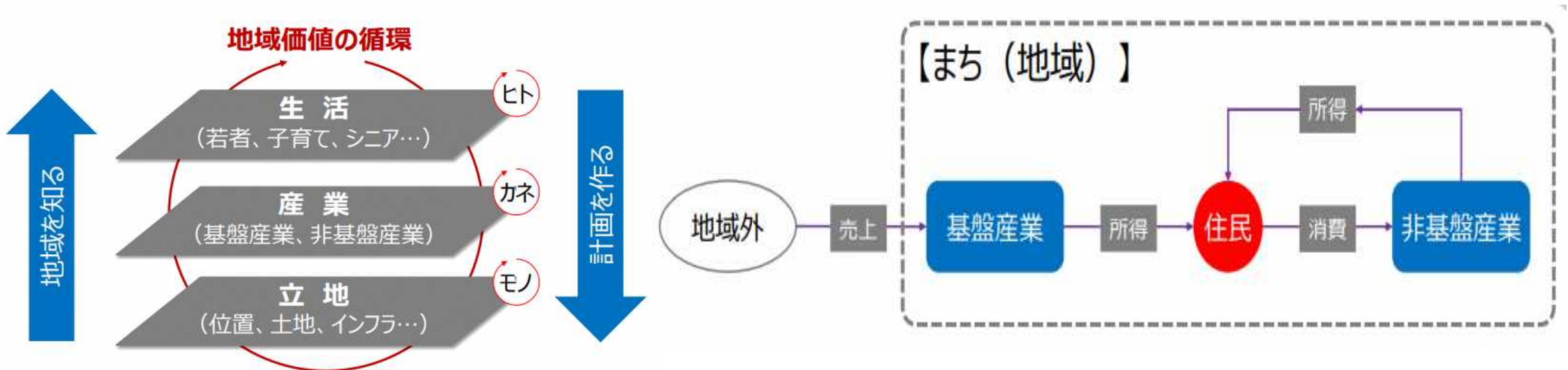
- ・講師：株式会社富士通総研 コンサルティング本部 行政経営グループ上保裕典氏
- ・月日：第15回WG2021年8月16日

(1) 地域活性化コンサルの基本的な考え方

- ①地域価値の循環：地域の価値を知り、地域価値が生活・産業・立地内で循環する計画を作る。
- ②地域経済の循環：「基盤産業」が地域外市場でお金を稼いで、「非基盤産業」が地域内で財やサービスを提供する。

①地域価値の循環

②地域経済の循環



1. 講演によ先端技術や事例調査－4

(2) 地域新電力設立の考え方

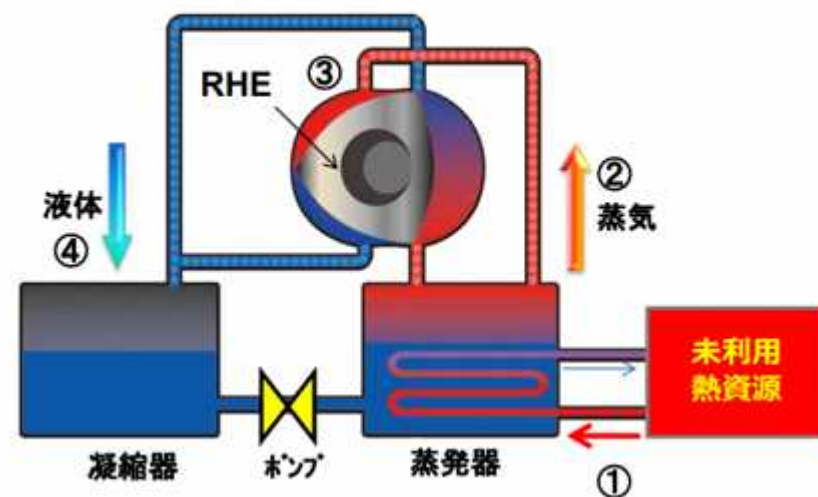
- ①地域新電力への期待：地域経済の活性化を起点とした価値創出・循環への期待
- ②なぜ「地域新電力」なのか？
 - ・「地域新電力」の設立は：＋環境、社会的価値
 - ・「○地域の新産業創出、○地域資源を最大限活用、○地域経済循環の主体（核）」の目的を共有できた上で、一つの“手段”が地域新電

1. 6. 「RHE（ロータリー熱エンジン）技術のご紹介

- ・講師：株式会社ダ・ビンチ 代表取締役
近畿大学工業高等専門学校 客員教授 東 謙治氏
- ・月日・2021年10月18日（第16回WG）

- ①低温低压：54℃で運転出来るロータリー。
- ②導入事例：・北海道(川湯温泉)：56度の温泉水を熱源に商用発電稼働中！世界でも例のない低温発電を実現。
 - ・2025大阪・関西万博：純国産水素の製造にロータリー熱エンジンを使用予定。
- ③投資回収：10kwの事例ではFIT価格で売電すると3年で改修出来る。

ロータリー熱エンジン(RHE)システム構成



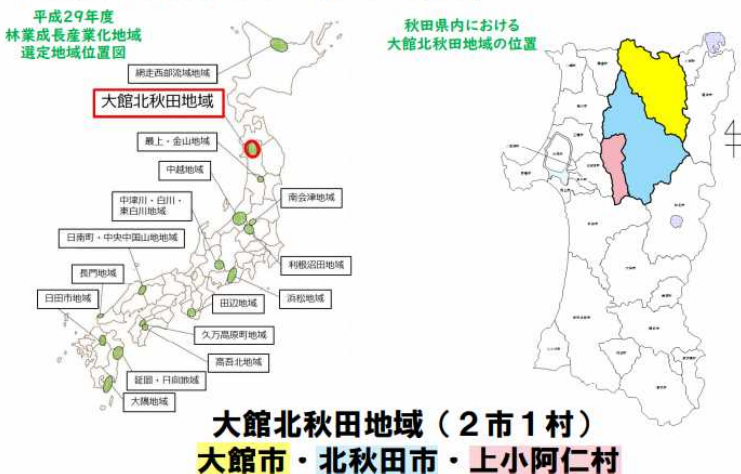
1. 講演による先端技術や事例調査－5

1. 7. 大館北秋田地域林業成長産業化協議会紹介

- ・講師：大館市産業部林政課木材産業係 千葉泰生氏
(大館北秋田地域林業成長産業化協議会 事務局)
- ・月日：2021年10月18日（第16回WG）

- ①大館市・北秋田市・上小阿仁村で構成；伐採が多いが再造林が1割未満の状態だった危機感が取組むきっかけ。
- ②伐採・植林・育成循環と木材供給・利用：川上から川下まで参画者の連携による木材供給
- ③市町村の範囲の小規模な木質バイオマス発電とし、熱電供給も検討。
- ④地域内エコシステムモデル構築事業展開：2050までカーボンゼロ、バイオマス導入基準設定。
地域全体でバイオマス利用意識向上
- ⑤新エネルギー地産地消WGに期待する事：「安定供給と山元への利益還元」

大館北秋田地域の概要



「循環の輪」創造：森林資源循環利用



WGに期待すること

新エネルギー地産地消WGの目的

地場の再生可能エネルギーを地場の資本によって、電力、熱水、冷水を作り、近隣の生産施設に供給し、地場の農産物や魚介類の生産と加工食品の生産、および伝統的工芸品の生産を行い、地場経済の活性化と振興を図ることを目的として、提案活動を行う。

テーマは「安定供給」と「山元への利益還元」

「安定供給」 キーワード：秋田スギ等県産材需要増、都市部の木質化 など

○木材の主たる生産目的は「住宅、非住宅」、「家具」等への材料供給。未利用材等をバイオマス利用。
⇒「住宅、非住宅」、「家具」の需要がないと、未利用材（バイオマス向け）は発生しない！

「山元への利益還元」 キーワード：川上の活性化、持続可能性 など

○木材生産するにも先ずは森林所有者の合意から。
⇒木材価格が安いとそもそも伐採しない！伐採してもその後の再植林はしない！将来の森林資源は…？

1. 講演によ先端技術や事例調査－6

1. 8. 「秋田県の人口減少と労働生産」

(2017年1月の公表レポート説明)

- ・講師：日本銀行秋田支店 高橋進氏
- ・月日：2021年12月22日0. (第17回WG)

(1) 秋田県の人口減少の要因は労働生産性の格差

	賃金 (千円/月)	同左東京比	労働生産性 (千円)	同左東京比	人口流出率
秋田県	238	62.40%	7,600	64.41%	+0.44%(流出)
東京都	382	100.00%	11,800	100.00%	-0.62%(流入)

注1. データは2015年時点

注2. 労働生産性は、1人当りの付加価値

※上記表は、日本銀行の報告書内のグラフから物差しで測って数値を推測し、
秋田県 と東京都を・抜き出して比較したもの。

- ①秋田県の人口減少は自然減だけでなく社会減が大きく影響している。
- ②都道府県の人口流出率と賃金の関係でみると賃金が比較的低い地方圏から賃金が相対的に高い大都市圏に人口が流出している。
- ③都道府県別の賃金と労働生産性が強い相関関係がある。労働生産性の格差が都道府県の賃金格差に対する影響が大きい。
- ④秋田県では、非製造業の労働生産性を向上することが、喫緊の課題となっている。

2. 賛同者募集活動ー 1

2. 1. 秋田の賛同者募集活動

1) 地元秋田の賛同者募集案内

(2021年4月19日 (第13回WG))

2) 「地元秋田からのWG活動参加者募集の案内」

(2021年6月21日 (第14回WG))

3) 地元秋田の賛同者参加状況

① 2021年4月19日 (第13回WG)

- ・大野義幸氏 秋田木質ペレット普及促進協議会 会長
- ・北嶋貞好氏 秋田木質ペレット普及促進協議会 参事
- ・花下 智之氏 アキモク鉄工(株) 代表取締役

② 2021年6月21日 (第14回WG)

本WGメンバーの鈴木秀顕が副理事長の「秋田地球熱利用事業ネットワーク」メンバー

- ・近藤嘉之氏 秋田東北商事(株) 代表取締役
- ・武藤聖英氏 株式会社武藤電子工業 代表取締役
- ・小柳永興氏 (有)小柳建築設備設計事務所 代表取締役

③ 2021年8月16日 (第15回WG)

「秋田地球熱利用事業ネットワーク」メンバー

- ・中村 壮氏 みずほ銀行 秋田支店長
- ・鈴木優佑氏 秋田銀行 地域価値共創部
- ・菅原一聖氏 秋田SDGs協 事務局長

地元秋田からの WG活動参加者募集の案内

令和3年4月19日

秋田産業サポータークラブ

新エネルギー地産地消ワーキンググループ

新エネルギー地産地消ワーキンググループ(WG)は、秋田県産業サポータークラブ内のワーキンググループの一つとして、秋田県内における新エネルギー地産地消を核とした新たな産業創造に向け、ボランティアで活動を推進しています。

此度、更に活動を推進するために地元秋田からの参加者を募集することとなりました。

趣旨にご賛同いただき、WGへご参加ください。

新エネルギー地産地消
コンビナート/クラスター

電力・熱
供給施設

電力・熱
供給

生産
加工
販売

地域支
援
施設

1/14

2. 賛同者募集活動ー2

④2021年10月16日（第16回WG）

「秋田地球熱利用事業ネットワーク」メンバー

- ・堀川俊明氏 (株)白光社
- ・佐々木文彦氏 サミットエネルギー開発株式会社
- ・加藤憲成氏 (株)英明工務店

2. 2. WE LOVE AKITA」に参加の呼びかけ

①2021年8月16日（第15回WG）・・・まだ賛同者無し。

2. 3. 大館北秋田地域林業成長産業化協議会関係者

①2021年10月16日（第16回WG）

- ・千葉泰生氏 大館北秋田地域林業成長産業化協議会事務局 大館市・主事

2. 4. 「三種町「温泉熱バイナリー発電」「トラフグ養殖」「じゅんさい施設栽培・機能食品加工」関係者

①令和3年12年01日（第17回WG事前打合せ）

- ・秋田県総合食品研究所 企画管理室 主任研究員 樋渡 一之氏、上席研究員 畠 恵司氏
(業が具体化したら参加する)

②三種町役場・・・今後の政策の参考にするがWG参加は控えたい。

③三種町森岳じゅんさい協議会・・・WG参加は控えたい。